

令和3年8月6日（金曜日）



## 【足立敏之議員】事前対策で洪水被害軽減／九州視察し効果確認

足立敏之参議院議員（自民党）は7月下旬に、昨年の「令和2年7月豪雨」で被災した熊本県の球磨川沿川地域や本年7月に記録的な雨量を観測した鹿児島県内を相次いで視察した。鹿児島県では大雨特別警報が発令され、さつま町を流れる川内川の宮之城雨量観測所で既往最大規模の降雨量を観測したにもかかわらず、戦後最大の被害をもたらした2006年7月の洪水を受けて実施した河川激甚災害対策特別緊急事業等（激特事業）や「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」による河道掘削、再開発で洪水調節容量を増強した鶴田ダムなどが効果を発揮し、大きな被害が発生しなかった。足立議員は「大雨特別警報が出た現場でも最小限の被害にとどまった。激特事業の分水路整備やダム再開発などをセットで実施してきた成果だ」と事前対策の効果を強調した。



鶴田ダム管理所で説明を受ける足立議員（左）

一方で県管理区間の氾濫や内水氾濫による被害は大きかったため「早期復旧や流域治水の観点から、さらなる対策が必要」と指摘している。

川内川中流部の鶴田ダムはダム再生事業の全国のはしりと言われており、管理事務所には職員に対する感謝の言葉が寄せられていた。足立議員は「地球温暖化の進展に伴い、こうしたダム再生事業が増えていくことを期待したい」と話す。

昨年の豪雨発生後、8回目の視察を行った熊本県では、流失した橋梁の現状と仮橋で通行できるようになった橋梁などの状況を確認。被災した建物の撤去等は進んだものの、被災した住宅など手付かずのところも多く「復興にはまだまだ時間がかかりそうな状況。一日も早く沿川住民が安心して暮らせるよう引き続き取り組む」とした。

なお、球磨川支川の災害復旧に向け国による権限代行が進む9河川では、5月末までに約20万立方mの土砂掘削が完了し、護岸等の被災施設の復旧は約90カ所で着手、残る約50カ所も含めて本年度中に全箇所の本復旧完了を目指している。